

猿 橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。



わ さ
「侘び・寂び」

校 長 磯部 裕之

9月のある日曜日の午後、車のラジオから懐かしいアニメソングが聞こえてきました。「デビルマンのうた」です。嬉しくなってボリュームを上げてしまいました。この曲をリクエストしたのは、その番組にゲストとして呼ばれていたアニメーターの白土 武（しらとたけし）さんでした。このアニメーターの白土 武さんという人は、現在、80歳。タイガーマスクやデビルマンの他にも、科学忍者隊ガッチャマン、マジンガーZ、宇宙戦艦ヤマトなど、昭和を代表する数々のテレビアニメを手掛けてきた第一人者です。番組の中で、白土さんは、こんなコメントを残しています。

タイガーマスクもデビルマンも、主人公に「侘び・寂び」が混じっているが、そういうのが、世界で通じない時代が長かった。ところが、ここ20年で、旅行に来た人が日本の良さを知れば知るほど日本人は変なところで親切で、変なところで義理がたい、と感じるようになった。日本のアニメが世界で通用するようになったわけは、日本のアニメの良さはこういうところにあるんだと理解されるようになったからじゃないかと、私はこんな風に思っています。

確かに、今や、日本のアニメーションは世界で大きく認められ、日本を代表する一つの文化となっています。その背景に「義理」や「人情」という日本で大切にされてきたものがあるという話は新鮮でした。では、この日本独特の「侘び・寂び」の感覚とは、どんなもののでしょうか。調べてみると「不完全なものを否定的にとらえず、素朴さや余白を重んじる美学」とのことです。「茶の湯・茶道」「日本庭園」などにも使われる言葉だそうですので、どこかに、その一瞬に生きる厳しさや潔さが含まれているのかもしれませんが。私は、「情緒」や「趣（おもむき）」「味わい」といった言葉に言い換えるとしっくりくるような気がしました。

夏休みが終わり、各教室の前にはズラリと力作が並びました。自由研究、習字、硬筆、絵画の他に、多種多様な作品の数々。お家の方と一緒に楽しみながら作ったと思われるもの、自分一人で奮闘して作り上げたと思われるものなど、一つ一つの作品から、一生懸命に作品作りに取り組む子どもたちの姿が目に見えてきます。こういった体験が、積み重なって子どもたちの感性を作り上げていくのだと思います。そんな子どもたちの作品には、どの作品にも「侘び・寂び」も感動も感激もぎっしりつまっているように思えました。



朝晩すっかり涼しくなり、虫の声が聞こえる季節となりました。スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋、と何かにじっくり取り組むのによい季節となりました。自分の好きなことに存分に浸り、感性を磨き、しっかりと実をつける、そんな2学期となるように教育活動を進めてまいります。